

新約神学A 須藤 伊知郎	履修年次	クラス	単位	学期
	1-4/3-4		2	前期
備考： 聖書学特殊講義C				

【講義の概要】

【授業の到達目標及びテーマ】

新約神学は、予め伝統的な教義を前提とし旧新約聖書全体に矛盾のない統一的な一つの神学を見出そうとするのではなく、新約聖書独自の神学、さらに新約各文書に見られる多様な諸神学を明らかにしつつその中心的な使信を探究することを目的とする。各文書が成立した状況の中で伝承の担い手、また編集者がイエスの福音に促されて何を選び取りどう行動したかということを経史的、批判的に検討することを通じて、無時間的普遍的に妥当するいわゆる「真理」ではなく、個別的一時的状況の中へと語られた、受肉した神の言葉を追及する。

【授業の概要】

本年度前期はF・ハーン『新約神学Ⅰ上』を教科書にして、最古のキリスト教会の宣教と神学、使徒パウロの神学（前半）を扱う予定。教科書と参考書を輪番で要約発表しクラス全体で討議する。

【準備学習等についての具体的な指示】

毎回教科書の該当部分を熟読し、積極的に討議に参加すること。

【各回ごとの授業内容】

1. 「第II部 最古のキリスト教会の宣教と神学 9 アラム語を話す原始教会の宣教と神学」(1) / 2. 同 (2) / 3. 「10 初期のヘレニズム・ユダヤ人キリスト教諸教会における福音の使信」(1) / 4. 同 (2) / 5. 「第III部 使徒パウロの神学 11 パウロ神学の論述にかかわる問題について」(1) / 6. 同 (2) / 7. 「12 旧約聖書に約束された救いの成就の宣言としての福音」(1) / 8. 同 (2) / 9. 「13 イエス・キリストの人格とわざの使信としての福音」(1) / 10. 同 (2) / 11. 「14 人間とその罪、失われていることの認識としての福音、および律法の問題」(1) / 12. 同 (2) / 13. 「15 救いをもたらす有効な力としての福音」(1) / 14. 同 (2) / 15. 前期試験

【テキスト】

F・ハーン（大貫隆・大友陽子訳）『新約神学Ⅰ上』（日本基督教団出版局、2006年）（著者割引で購入可）

【参考書等】

F・ハーン（須藤伊知郎訳）『新約神学Ⅰ下』（日本基督教団出版局、2007年） / R・ブルトマン（川端純四郎訳）『新約聖書神学』全3巻（新教出版社、1963/66/80年） / E・シュヴァイツァー（小原克博訳）『新約聖書への神学的入門（NTD補遺2）』（日本基督教団出版局、1999年） / G・タイセン（大貫隆訳）『新約聖書』（教文館、2003年） / 荒井 献・石田友雄編『旧約新約聖書大事典』（教文館、1989年） / 樋口進・中野実監修『聖書学用語辞典』（日本基督教団出版局、2008年）その他随時教室で紹介

【成績評価の方法】

平常点（40点）と期末試験（60点）

【履修上の注意】

予習をされていて分からない言葉や事項に突き当たったら、労を惜しまず事典、参考書に当たって調べる。教科書のみでなく、参考書にも目を配り、同じテーマが扱われている箇所を批判的に参照して、自分自身の意見を持つように努めること。